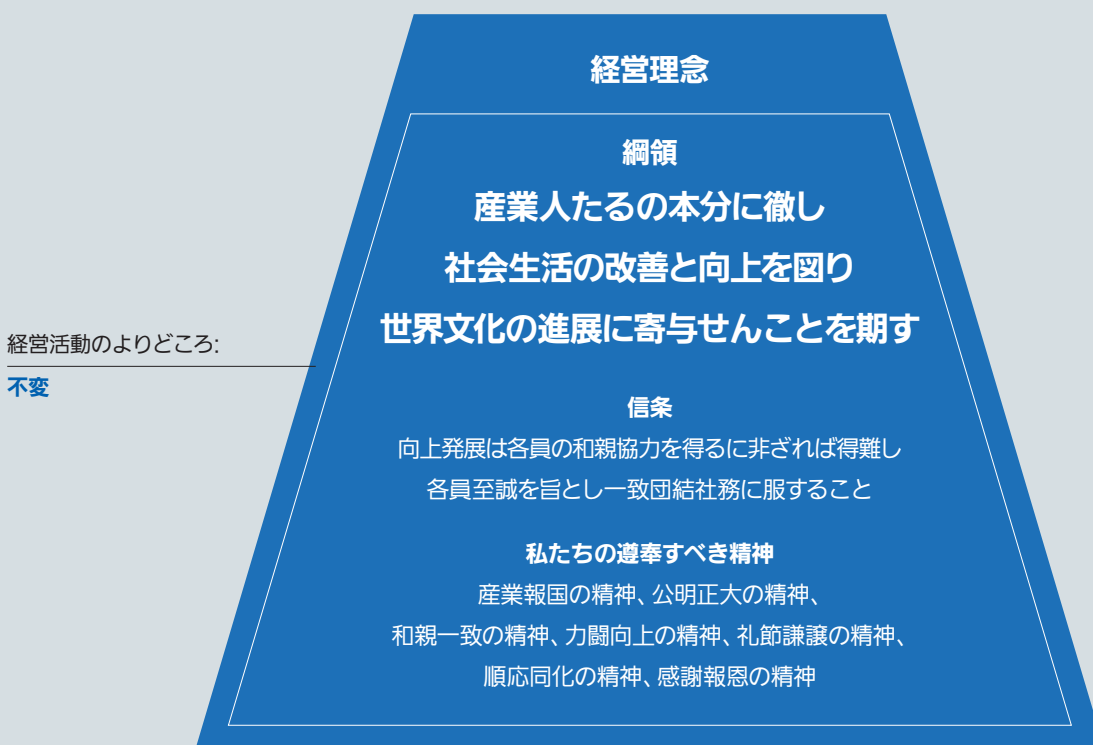


経営理念

私たちの使命は、生産・販売活動を通じて社会生活の改善と向上を図り、世界文化の進展に寄与すること——。「綱領」は、パナソニックの事業の目的とその存在の理由を簡潔に示したものであり、「経営理念」の根幹として、これまであらゆる経営活動のよりどころとしてきました。今後もパナソニックは、経営理念に基づいて、社会の課題解決と発展に貢献し続け、新しい未来を切り拓いていきます。そして、持続的な成長と企業価値の向上を実現していきます。

A Better Life, A Better World



経営活動のよりどころ:

不変

経営理念実践のための
指針:

**社会情勢などの変化に
応じて進化**

パナソニック行動基準

(改訂・更新を経て2019年に現基準)

<https://www.panasonic.com/jp/corporate/management/code-of-conduct/list.html>

- “A Better Life, A Better World”
創業者・松下幸之助が定めた綱領を、現代向けに、端的に表現したパナソニックのブランドスローガン
- 綱領
パナソニックの事業の目的とその存在の理由を簡潔に示したもので、「経営理念」の根幹としての経営活動の拠り所
- 「産業人たるの本分に徹する」
私たちのつくり出す商品やサービスが、人々や生活により多くの便宜を

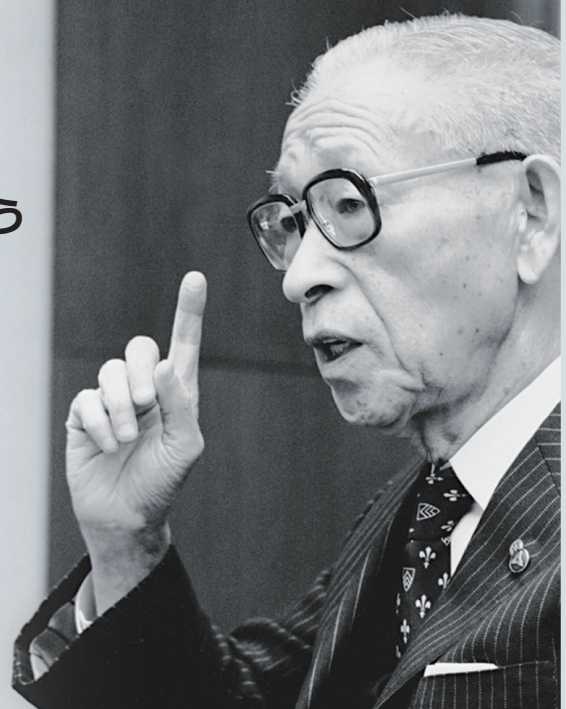
与え、その福祉の充実向上と幸福に大きく貢献しなければならないことを自覚するとともに、その使命観に立って、与えられた役割を実践していくこと。

- 信条
綱領を実践するための心構え
- 私たちの遵奉すべき精神
信条の拠り所(精神的態度の基準)

創業者 松下幸之助の企業観

『企業は社会の公器である。
社会の公の機関を預かっているという
責任感に徹しなければならない。』

創業者
松下 幸之助
(1894年-1989年)



創業者が考える企業の社会的責任

以下の原則を踏まえ、時代の変化に即応すること。

原則 1

企業の本来の事業を通じて、
社会生活の向上、
人々の幸せに
貢献していくこと。

原則 2

その事業活動から
適正な利益を生み出し、
それをいろいろな形で
国家社会に還元していくこと。

原則 3

そうした企業活動の過程が、
社会と調和したもので
なくてはならないこと。

企業観を支える創業者の思想

幸之助は1932(昭和7)年、当社の真の使命に思い至った。それは、当時の社会状況に鑑み、「物資を生産に次ぐ生産をもって貧乏を克服し、富を増大する」というもので、後に「水道哲学」と呼ばれた。つまり、道端で通行人が飲んでもとがめられないほど、安く、豊富な水道の水のように、物資を豊富にかつ廉価に生産供給するという考え方である。

この考え方の根底には、人間の幸せ、社会の繁栄についての幸之助の独自の思想がある。それは、「精神的な安定と、物資の無尽蔵な供給が相まってはじめて人生の幸福が安定する」というもので、当社の使命は、いわばこの「物心一如」という考え方に基づいている。